

電波利用推進に 盛岡で情報化セミナー

総務省東北総合通信局(武井俊幸局長)などは19日、盛岡市の盛岡地域交流センター(マリオス)で、未利用電波の利用推進と情報通信技術を活用した地域情報化を図るセミナーを開催した。自治体や企業などから約120人が参加。初めに武井局長が「東日本大震災の発生で、住民への情報提供や災害時の事業継続が改めて課題になったのは、ぜひセミナー



約120人が参加した電波利用推進と地域情報化のセミナー

を災害に強いまちづくりの「エンタープライズ」を実現しようとした。続いて講演と事例紹介が行われた。このうち同省総合通信基盤局電波政策課の木曾裕嗣波数調整官は「ホワイトスペース利用の推進に向けた取り組みについて」と題し講演した。

ホワイトスペースとは放送や通信のために割り当てられている電波のうち、実際には利用されていない周波数帯。地下波テレビ放送のデジタル化

で空白が生まれており、その高度な情報システムへの構築に向けて利用の機会が高まっている。木曾調整官は「地域情報や災害情報の提供などへの活用や絆の再生に役立つほか、新産業の創出なども期待できる」と利点を挙げた。

で空白が生まれており、その高度な情報システムへの構築に向けて利用の機会が高まっている。

で空白が生まれており、その高度な情報システムへの構築に向けて利用の機会が高まっている。

で空白が生まれており、その高度な情報システムへの構築に向けて利用の機会が高まっている。

で空白が生まれており、その高度な情報システムへの構築に向けて利用の機会が高まっている。